

だい ぶ かだい  
第5部 課題

この用紙は、大会当日使用しますので、必ずご持参ください。

だい かい  
第17回  
まいにち にゅうりょく  
毎日パソコン入力コンクール  
がつたいかい  
6月大会  
か だい  
【課題】  
だい ぶ わぶん しょうがくせいてい ちゅうがくねん  
第5部 和文A 小学生低・中学年  
ことわざ・慣用句①  
かんりょうく  
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう  
【コンクール当日の注意事項】

- この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
- 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
- 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

さんこうぶんけん しょうがくかん かんりょうく じてん もじすう じていど  
※参考文献：小学館 慣用句びっくりことば事典（文字数1,460字程度）

かだいぶんしょう きんそくもじ  
〈課題文章の禁則文字について〉

まいにち にゅうりょく  
毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでい  
るため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルど  
おりに入力すると正解になります。

しゅさい  
主催

まいにちしんぶんしゃ  
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん  
一般社団法人

にほん のうりょくけんていいいんかい  
日本パソコン能力検定委員会

こうえん  
後援


そうむしょう  
総務省

もんぶかがくしょう  
文部科学省


こうせいろうどうしょう  
厚生労働省


けいざいさんぎょうしょう  
経済産業省ほか


ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりょく  
1行28字詰で、つぎの文章を入力してください。


※  の箇所かしよ かいぎょうで改行 (Enter) してください。


きゅうひょうじ (級表示は、ミスカウント0の場合の入力めやすです)

へそで茶ちやをわかす 


ふくろのねずみ 


まな板いたのこい 


さるも木きからおちる 


てんさいはわすれたころにやってくる 


きつねとたぬき 


立つ鳥とりあとをたにごさず 


つるのひとこえ一声 


るいは友ともをよぶ 


ぬかにくぎ  ←10級


馬うまの耳みみにねんぶつ 


花はなよりだんご 


かえるの子こはかえる  ↓8級


にがした魚さかなは大きいおおい 

おににかなぼう 


こいのたきのぼり 


ちりもつもれば山やまとなる  ↓5級


頭あたまかくしてしりかくさず  ↓3級


すずめのなみだ 


せいてはことをしそんじる 

くさいものにふたをする 


ほねおりぞんのくたびれもうけ  ↓準2級


とんびにあぶらあげをさらわれる 



来年らいねんのことを言いえばおにがわらう 


身みから出でたさび  ↓2級

けんえんのなか 

なきつつらにはち 

よいっばりの朝あさねぼう 

  
足あしをのばす 

のびのびとゆっくり休やすむこと。決きめていたところより、もっ  
と遠とおくまで行くこと。  ↓準1級

いつもより足<sup>あし</sup>をのばして、となりの町<sup>まち</sup>のデパートで買<sup>か</sup>い物<sup>もの</sup>をした。☞



め<sup>で</sup>が出<sup>で</sup>る☞

木<sup>き</sup>や草<sup>くさ</sup>がめばえる。しごとやはたらきが、せけんにみとめられはじめる。☞

サッカーのしあいで、やっとめ<sup>で</sup>が出<sup>で</sup>て、ゆうしょうした。☞



実<sup>み</sup>を結<sup>むす</sup>ぶ☞

努力<sup>どりよく</sup>しただけ、十分<sup>じゅうぶん</sup>な結果<sup>けっか</sup>がえられる。☞

毎日<sup>まいにち</sup>の練習<sup>れんしゅう</sup>が実<sup>み</sup>を結<sup>むす</sup>び、水泳<sup>すいえい</sup>の級<sup>きゅう</sup>がまた上<sup>あ</sup>がった。☞



ね<sup>みみ</sup>耳<sup>みみ</sup>に水<sup>みず</sup>☞

思<sup>おも</sup>いがけないできごとが、とつぜん起<sup>お</sup>きてびっくりするよう

す。☞

↓1級

たん<sup>せんせい</sup>にんの先生<sup>せんせい</sup>がとつぜんやめるなんて、まるでね<sup>みみ</sup>耳<sup>みみ</sup>に水<sup>みず</sup>だ

よ。☞



顔<sup>かお</sup>がそろう☞

あつまるとよていの人<sup>ひと</sup>たちがみんなあつまる。☞

お楽<sup>たの</sup>しみ会<sup>かい</sup>は、いつもの顔<sup>かお</sup>がそろって楽<sup>たの</sup>しかった。☞



門<sup>もん</sup>をたたく☞

でし入<sup>い</sup>りをねがって、おとずれる。☞

兄<sup>あに</sup>は、しとあおぐ作<sup>さっさく</sup>曲<sup>か</sup>家の門<sup>もん</sup>をたたいた。☞



板<sup>いた</sup>につく☞

仕事<sup>しごと</sup>などになれてぴったりなじんでいるさま。ふくそうやた

いどなどがしっくり合<sup>あ</sup>っているさま。☞

二度<sup>にど</sup>目<sup>め</sup>なので、ぎちょうぶりは板<sup>いた</sup>についてきた。☞



百<sup>ひゃく</sup>も承<sup>しょう</sup>知<sup>ち</sup>☞

十分<sup>じゅうぶん</sup>すぎるほどわかっている。☞

どんな<sup>とざんか</sup>登山家でも冬山<sup>ふゆやま</sup>が危険<sup>きけん</sup>なことは、百も承知<sup>ひゃくしょうち</sup>だ。☞



二<sup>に</sup>の足<sup>あし</sup>をふむ☞

ためらって、どうしようかとまよう。ためらう。しりごみする。☞

いちどしっばいしたことには、どうしても、二<sup>に</sup>の足<sup>あし</sup>をふんでしまう。☞



はらがすわる☞

どきょうがあり、びくびくしないでおちついている。心<sup>こころ</sup>がおちついてびくともしない。☞

はらがすわっている兄<sup>あに</sup>は、いつもぼくのたよりになる人<sup>ひと</sup>だ。☞



身<sup>み</sup>につける☞

体<sup>からだ</sup>にぴったりとくっつけるようにして持<sup>も</sup>つ。いふく<sup>き</sup>を着る。ちしきや学<sup>がく</sup>もん、ぎじゅつなどをしゅうとくする。☞

姉<sup>あね</sup>は英会話<sup>えいかいわ</sup>を身<sup>み</sup>につけ、しごと<sup>だ</sup>にやく立てようと思<sup>おも</sup>っている。☞



額<sup>ひたい</sup>に汗<sup>あせ</sup>する☞

額<sup>ひたい</sup>にいっぱい汗<sup>あせ</sup>を流<sup>なが</sup>すなど、一生<sup>いっしょう</sup>けんめいに働<sup>はたら</sup>く。☞

ボランティアの仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>で、額<sup>ひたい</sup>に汗<sup>あせ</sup>する。☞



穴<sup>あな</sup>のあくほど☞

目<sup>め</sup>もそらさず、じっと見<sup>み</sup>つめる。☞

弟<sup>おとうと</sup>はありのえさ運<sup>はこ</sup>びのようすを、穴<sup>あな</sup>のあくほど見<sup>み</sup>ている。☞



かたをもつ☞

みかたになってたすける。☞

母<sup>はは</sup>はいつも兄<sup>あに</sup>のかたをもつ。☞



水<sup>みず</sup>にながす☞

今<sup>いま</sup>までにあったあらそいやもめごとなどをとやかに言<sup>い</sup>わず、

なにもなかったことにする。◀

兄は今までのことは水にながして、なかなかおりしよと言ってきた。◀

◀

うでによりをかける◀

持っているのうりよくを十分に<sup>じゅうぶん</sup>出<sup>だ</sup>そうとはりきる。◀  
母<sup>はは</sup>のたんじょう日<sup>び</sup>には、父<sup>ちち</sup>と姉<sup>あね</sup>がうでによりをかけて料理<sup>りょうり</sup>をつく作った。◀

◀

顔<sup>かお</sup>から火<sup>ひ</sup>が<sup>で</sup>出る◀

たいへんはずかしい<sup>おも</sup>思いで顔<sup>かお</sup>が赤<sup>あか</sup>くなる。◀  
じゅぎょう中<sup>ちゅう</sup>、おなかがグーと鳴<sup>な</sup>ったので、顔<sup>かお</sup>から火<sup>ひ</sup>が<sup>で</sup>出るようだった。◀

◀

ひぎをのり出す◀

あることに心<sup>こころ</sup>を引<sup>ひ</sup>かれる。また進<sup>すす</sup>んで自分<sup>じぶん</sup>からやろうとする

◀

犬<sup>いぬ</sup>の話<sup>はなし</sup>になると父<sup>ちち</sup>はすぐにひぎをのり出して話<sup>だ</sup>してくれる。◀

◀

頭<sup>あたま</sup>が切<sup>き</sup>れる◀

頭<sup>あたま</sup>のめぐりが早<sup>はや</sup>く、てきばきとものごとをしよりするのうりよくがある。◀

かれは頭<sup>あたま</sup>が切<sup>き</sup>れるので、ぎちょうとしててきにんだ。◀


◀

角<sup>かど</sup>が取<sup>と</sup>れる◀


人<sup>ひと</sup>がらや性質<sup>せいしつ</sup>がおだやかで円満<sup>えんまん</sup>になること。◀


若<sup>わか</sup>くて、らんぼうな人<sup>ひと</sup>も年<sup>とし</sup>とともに角<sup>かど</sup>が取<sup>と</sup>れて、やさしくなるという。


1行28字詰で、つぎの文章を入力してください。


※  の箇所で行 (Enter) してください。


(級表示は、ミスカウント0の場合の入力めやすです)


へそで茶をわかす 

ふくろのねずみ 


まな板のこい 


さるも木からおちる 


てんさいはわすれたところにやってくる 

きつねとたぬき 

立つ鳥あとをにごさず 

つるの一声 


るいは友をよぶ 


ぬかにくぎ  ←10級

馬の耳にねんぶつ 


花よりだんご 

かえるの子はかえる  ↓8級


にがした魚は大きい 

おににかなぼう 


こいのたきのぼり  ↓5級


ちりもつもれば山となる 


頭かくしてしりかくさず  ↓3級


すずめのなみだ 


せいてはことをしそんじる 

くさいものにふたをする 


ほねおりぞんのくたびれもうけ  ↓準2級

とんびにあぶらあげをさらわれる 

来年のことを言えばおにがわらう  ↓2級


身から出たさび 


けんえんのなか 

なきつつらにはち 

よいっばりの朝ねぼう 



足をのばす 

のびのびとゆっくり休むこと。決めていたところより、もっと遠くまで行くこと。  ↓準1級

---

いつもより足をのばして、となりの町のデパートで買い物をした。☞

☞

めが出る☞

木や草がめばえる。しごとやはたらきが、せけんにみとめられはじめる。☞

サッカーのしあいで、やっとめが出て、ゆうしょうした。☞

☞

実を結ぶ☞

努力しただけ、十分な結果がえられる。☞

毎日の練習が実を結び、水泳の級がまた上がった。☞

☞

ね耳に水☞

思いがけないできごとが、とつぜん起きてびっくりするようす。☞

↓1級

たんになの先生がとつぜんやめるなんて、まるでね耳に水だよ。☞

☞

顔がそろう☞

あつまるとよいの人たちがみんなあつまる。☞

お楽しみ会は、いつもの顔がそろって楽しかった。☞

☞

門をたたく☞

でし入りをねがって、おとずれる。☞

兄は、しとあおぐ作曲家の門をたたいた。☞

☞

板につく☞

仕事などになれてぴったりなじんでいるさま。ふくそうやたいどなどがしっくり合っているさま。☞

二度目なので、ぎちょうぶりは板についてきた。☞

☞

百も承知☞

十分すぎるほどわかっている。☞

---

どんな登山家でも冬山が危険なことは、百も承知だ。☞

☞

二の足をふむ☞

ためらって、どうしようかとまよう。ためらう。しりごみする。☞

いちどしっばいしたことには、どうしても、二の足をふんでしまう。☞

☞

はらがすわる☞

どきょうがあり、びくびくしないでおちついている。心がおちついてびくともしない。☞

はらがすわっている兄は、いつもぼくのたよりになる人だ。☞

☞

身につける☞

体にぴったりとくっつけるようにして持つ。いふくを着る。ちしきや学もん、ぎじゅつなどをしゅうとくする。☞

姉は英会話を身につけ、しごとにやく立てようと思っている。☞

☞

額に汗する☞

額にいっぱい汗を流すなど、一生けんめいに働く。☞

ボランティアの仕事で、額に汗する。☞

☞

穴のあくほど☞

目もそらさず、じっと見つめる。☞

弟はありのえさ運びのようすを、穴のあくほど見ている。☞

☞

かたをもつ☞

みかたになってたすける。☞

母はいつも兄のかたをもつ。☞

☞

水にながす☞

今までにあったあらそいやもめごとなどをとやかに言わず、

---



---

なにもなかったことにする。☞

兄は今までのことは水にながして、なかなおりしようと言ってきた。☞

☞

うでによりをかける☞

持っているのうりよくを十分に出そうとはりきる。☞

母のたんじょう日には、父と姉がうでによりをかけて料理を作った。☞

☞

顔から火が出る☞

たいへんはずかしい思いで顔が赤くなる。☞

じゅぎょう中、おなかがグーと鳴ったので、顔から火が出るようだった。☞

☞

ひぎをのり出す☞

あることに心を引かれる。また進んで自分からやろうとする。☞

犬の話になると父はすぐにひぎをのり出して話してくれる。☞

☞

頭が切れる☞

頭のめぐりが早く、てきぱきとものごとをしよりするのうりよくがある。☞

かれは頭が切れるので、ぎちょうとしててきにんだ。☞

☞

角が取れる☞

人がらや性質がおだやかで円満になること。☞

若くて、らんぼうな人も年とともに角が取れて、やさしくなるという。

---